

## 第6回日本認知症予防学会学術集会 発表

題名；中鎖脂肪酸摂取によるグループホーム入居者の認知機能の検討

氏名；井上昌彦<sup>1)</sup>、野坂直久<sup>2)</sup>、山崎信子<sup>3)</sup>、折原由希子<sup>2)</sup>、土屋欣也<sup>2)</sup>、西山壘<sup>3)</sup>、時田佳代子<sup>3)</sup>、時田純<sup>3)</sup>、寺田明子<sup>4)</sup>

所属；<sup>1)</sup>医療法人社団井上会井上医院、<sup>2)</sup>日清オイリオグループ株式会社、<sup>3)</sup>社会福祉法人小田原福祉会、<sup>4)</sup>児玉教育研究所

### 【目的】

中鎖脂肪酸（MCF）による、認知症の記憶障害改善の報告がある。今回、グループホーム入居者の認知機能、日常生活動作（ADL）等に対する MCF 摂取の影響を検討した。

### 【対象】

14名（男性3名、女性11名）、平均85歳。アルツハイマー型認知症11名、脳血管性認知症2名、前頭側頭葉変性症1名。

### 【方法】

食事に1日20gのMCF含有市販食品を付加し、12週間摂取。長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）、時計描画テスト（CDT）、N式老年者用精神状態尺度（NMS）、Physical Self-Maintenance Scale(PSMS)、クリニカルグローバルインプレッション（CGI）評価と体重測定、血液検査を施行。

### 【結果】

食欲不振等にて4名が中止したが、継続した10名には軟便以外の副次的影響は認めなかった。体重とHbA1c値の増加が見られたが、血清脂質、肝機能、血中ケトン体に著しい変動はなかった。HDS-R 8.3点→7.8点、CDT 1.2点→1.5点、NMS 26.4点→22.7点、PSMS 2.6点→1.9点と、MCF摂取期間前後の平均値には明らかな改善はみられなかったが、軽度認知症（NMS 31点以上）5名中、2名がCDTで2点以上改善し、4名にCGIで軽度以上の改善が観察された。

### 【考察】

全体としてMCF摂取後に認知機能やADLに明確な変化は見られなかったが、軽度認知症の一部でCDT、CGIの改善が見られたことから、MCFは認知症に対して有用な可能性がある。一方、MCF摂取後の体重増加があり、MCF摂取時には食品交換が重要と考えられた。認知機能や周辺症状の評価・観察にエビデンスレベルの高い検査を用いる等、MCF摂取の認知症予防・改善効果はより詳細に行う必要があると思われる。